

HOYOG 教区新報

発行所 浄土真宗本願寺派 兵庫教区教務所
〒650-0011 神戸市中央区下山手通 8 丁目 1 番 1 号
(本願寺神戸別院内)
電話 神戸 (078) 341-5949(代)
〔編集〕教区基推委広報部

1999.11.12 127号



国際会館に2,000人が集まる

十月十四日(木)、兵庫教区仏教婦人会連盟結成四十周年記念大会が、神戸国際会館に参加会員千八百一人、来賓百四十一人を集め、

教区仏婦が40周年記念大会 二千人の大合唱

記念大会

の柴田克子連盟副委員長のアナウンスで記念大会は開幕され、教区連盟旗、各組連盟旗が入場、楠田一子常任委員が開会を宣言した。動行・仏婦綱領のあと高橋廣爾大会会長のあいさつに引き続き、総裁様が「阿弥陀さまのお慈悲を仰がれ、大震災の辛さ、苦しさを力強さに変えて生きてこられた皆さんの姿は、全国の人々の

に希望を与えました」とお言葉を述べられた。続いて木村久子大会委員長のあいさつの後、豊原総長のあいさつがあり、総長はその中で御影堂平成大修復に触れ、今後の仏婦会員への本山参拝を願った。

「萌える」「いのち」「二十一世紀への歩み」をテーマとして、ご門主さまのお言葉を引用しつつ宗派をこえた縁起の教えを通して、かけがえないいのちの尊さを説いた。

講演終了後、トルコ・台湾大震災への義援金等のダイナ献金として、役員による募金を実施し三十五万八千六百十七円が集まった。次のプログラムでは会場の照明を落し、雅楽の入室で厳かな開演となったアトラクション「教信沙弥の生涯」。親鸞聖人もその生き方の手本とされた、教信沙弥ゆかりの加古川市教信寺の長谷川慶悟氏によるコンサートを中心とした音楽劇であった。本派からもナレーションに鹿多証道氏(加古川組妙正寺)、雅楽に清風会より中村信之氏(神戸西組浄行寺)を中心とする九人が出演した。

閉会式では随行長の武田昭英総務のあいさつ、田中佐和子副委員長による閉会宣言後、参加者一同が総裁様作詞の「ほほえみ」ともに「を大合唱する中、総裁様ご一行が退席され、午後四時半に終了した。(総裁様のお言葉全文と関連記事は2・3ページ)



極楽浄土の池中の蓮華をあらわしたことばに「青色青光」とあるように、一人ひとりそれぞれに光り輝く自分のひかり、「いのち」の光をもっている。青く輝く「いのち」をもつ人は青の光を放ち、赤く輝く「いのち」をもつ人は赤の光を放つ。十人十色である◆一人ひとりが自分の色を大切に、自分の光に生き貫かねばならない。一度しかない人生が本当に生かされなかったら、人間として生まれたことにはならない。「生かされる」とは、限らない「いのち・ひかり」のもと、自分自身によって生かされていくのである◆自らの在り方・生き方を、自らの身体・心・意志で築きあげつつ生きていく人間となる。その自分を育てる大きな目標・力・方法となるのが、「青色青光」といわれる「いのち」の光である◆努力もしないで「自分はましだ」などと考えるより、「無理かもしれないけれども蓮華をめざしてみよう」と考えたほうが、はるかに意味があるのではなからうか。(永正英了)

教区だより		12・1月	
12月14日(火)	教区代表者本願寺参拝	12月22日(水)	スカウト役員会 18:00
12月15日(水)~16日(木)	別院常例法座 森田 智 師 13:30	12月26日(日)	震災支援「報恩講子供のつどい」 11:00
12月16日(木)	震災現地災害対策・教区災害対策合同会議 13:30	12月28日(火)	青僧会役員会 17:00
12月18日(土)	年忘れヤング広場 17:00	12月28日(火)	教務所・別院事務終了
12月19日(日)	水西組組巡回 西光寺	12月31日(金)	別院除夜会 17:00
12月20日(月)	保育理事会 15:00	1月1日(土)	別院元旦会 7:00
12月21日(火)	布教団副団長会議・役員会 13:00	1月8日(土)	教務所・別院事務開始
		1月15日(土)~16日(日)	別院常例法座 13:30
		1月18日(火)	阪神・淡路大震災物故者総追悼法要 13:30

平成12年度版「ダーナ手帳」



教区仏教婦人会連盟(木村久子委員長)では、平成二年度より十一冊目にあたる「平成十二年度版ダーナ手帳」を発行した。十二年度版では久堀弘義先生(神戸湊組・行願寺)より「正信念佛偈」をテーマに十二の法話を執筆されており、毎月ページ左面では法話を味わい、右面にはカレンダーとしてダーナ活動が記録できるよう工夫されている。また、ダーナ活

動紹介として、木村委員長や田中佐和子副委員長、柴田克子副委員長、楠田一子常任委員の事例を紹介している。仏教婦人会も今年四十周年を迎え、今後さらに仏婦活動の大切さが認識される今、活動を推進していくための座右としてこの手帳を活用し、御同朋の道を歩ませてもらいたいと記している。



「門推の日」テレビ放送

兵庫教区門徒推進員連絡協議会では毎月「門推の日」を開催しているが、このたび本願寺のテレビ番組、スカイ・A「心の時間」西本願寺)で、教区門徒推進員の活動が放送されることになった。同番組は毎月内容が更新され、放送日は毎週金曜日午前八時四十五分から九時までの十五分間。放送局は、衛星CS放送スカイパーフェクトTVのチャンネル285、ディレックTVのチャンネル131。放送されるのは十一月六日(土)開催された「門推の日」の内容で、当日はテレビ撮影という緊張の中にも熱気のある雰囲気であった。平成十二年一月中の金曜日が放送日で、一月七日・十四日・二十一日・二十八日の四日間となる。

敬弔

西本房子さん(にしもと・ふさこ) 阪神東組源正寺坊守) 10月8日、70才で往生。葬儀は10月13日。「廣済院釋妙房」。

若宮章子さん(わかみや・あやこ) 城崎組光行寺前坊守) 10月12日、80才で往生。葬儀は10月14日。「篤文院釋尼妙章」。

寺本正幸師(てらもと・まさゆき) 神明組専福寺前住職) 10月21日、76才で往生。葬儀は10月23日。「寶林院釋正幸」。

寺元重幸師(てらもと・しげゆき) 神明組専福寺前住職) 10月21日、76才で往生。葬儀は10月23日。「寶林院釋正幸」。

末永芳子さん(すえなが・よしこ) 神戸東組誠照寺前坊守) 10月29日、85才で往生。葬儀は10月31日。「誠願院釋芳信」。

長田智海師(ながた・ちか) 岡山南組光善寺前住職) 10月29日、80才で往生。葬儀は11月2日。「浄願院釋智海」。

森本千重子さん(もりもと・ちえこ) 水西組正福寺前坊守) 11月26日、77才で往生。葬儀は11月29日。「唯報院釋尼千重」。

近同推が標語募集

近畿同朋運動推進協議会(杉本昭典会長)は、同和教育振興会と共同で、毎年作成しているポスターに掲載する標語の募集を始めた。内容は、同朋運動の推進を目的とするもので、未発表のもの。原則として二十字以内。採用作品は二作品。採用作品には記念品が贈られる。

応募締切は、平成十二年一月三十一日必着。応募先は、兵庫教区教務所内、近畿同朋運動推進協議会事務局まで。

大谷範子仏教婦人会総連盟総裁様のお言葉全文は次の通り。

お慈悲を仰ぎ

兵庫教区仏教婦人会連盟結成四十周年記念大会に出席いたしました。兵庫教区の多くの仏教婦人会の会員の皆様にお目にかかりご挨拶する機会をあたえられましたこと誠に嬉しく有り難く思っております。

京都では、いよいよ御影堂の平成大修復工事が始まりました。夏前に親鸞聖人のお像を御影堂から阿弥陀堂へお移しいたしました。そして今は御影堂にかぶせる素屋根の工事をいたしてあります。御影堂は今から三六十年前、寛永十三年に建てられました。その間、寛政十二年から十年間、大修理がありました。二百年ぶりの大修理となりました。黒々とした柱やしみのついた壁を見ますと、あらためて親鸞聖人のみ教えをいただき、お念仏の道場を守られた先人の方々の熱い思いを偲ぶことができます。

40周年を機縁として 自覚を新たに

～ 総裁さまのお言葉 ～

か考えられない後ろめたさをお念仏して他の人への思いやりに変えて、阿弥陀如来様と共に人生を送ってこられました。その念仏者としての生き方を通して、お念仏は子や孫に伝えられております。

ことに一九九五年一月の阪神・淡路大震災から四年、本当につらい苦しい日々を過ごしてこられたことと拝察いたしております。仏教婦人会の総連盟では、震災直後は救護物資や炊き出し

に、やや落ち着かれてからは法話会を開催することによって、兵庫教区の皆様の心に添いたいと活動してまいりました。阿弥陀如来様のお慈悲を仰がれ、このつらさ、この苦しさが生きているあかしとばかりに力強く歩まれる方々の姿は、全国の仏教婦人会の会員に大きな希望を与えてくださいました。また、トルコあるいは台湾での地震のときに、阪神・淡路大震災の経験を生かして救護活動をすることができたと報道されており、ホッといたしました。

21世紀の課題

二十一世紀はどんな社会になるか予測の難しいところですが、地球の環境問題を始めとして「自分さえ良かったら」という狭い考え方は通用しない時代だと思います（環境問題につきま

しては機関紙「めぐみ」の最新号、一六七号に具体的な方法が提示されておりますのでぜひお読みください）。考えの違う人々が、互いに相手を非難したり無視したりするのはなく、違いを認めつつ何とか協力しあっ

ていなくてはならないと思います。阿弥陀如来様のお慈悲を仰ぐなら、自分の中へ心が溶かされ、お慈悲の中に飛びたち他の人と手を取り合っている軽やかさを恵まれます。他の人の苦しみをその人個人の問題として同情するだけでは、その人は助からないだけでは、私の存在そのものがその人を苦しめることにもなりかねません。その人を苦しめている問題の本質を深く考えるなら、自分も共に問題解決のために働かなければならないと思っております。

親鸞聖人や蓮如上人のご生涯は「苦しむ人々を救うためならどんな苦勞でもいたしましょう」というご生涯であったと思えます。本日の大会を機縁に仏教婦人としての自覚を新たにいたしたいものでございませぬ。繰り返して教えを聞くこと、活動することを通してお念仏をいただく仲間が増え、兵庫教区仏教婦人会連盟が次々と新しいページに歴史を書きつけてくださることを期待いたします。ご挨拶いたします。

和やかに 祝賀パーティー

午後五時から神戸オリエンタルホテルにて、総裁様を囲み、三六〇人が参加して祝賀懇親会を開いた。来賓祝辞の後、仮設住宅から招待された磯井悦子さんによる詩吟や、長谷川慶悟氏によるコントラバスの演奏が催され、祝賀の宴を飾った。

総裁様は各テーブルを巡り仏婦会員と談笑され、各テーブルごとに記念写真を写すなど、和やかに祝宴を楽しまれた様子であった。宴も終わりに近づき、千扇さん（本名・杉本正義氏）の「本願寺音頭」が演じられると、会場に集まった会員は一斉に立ちあがって踊りの輪に参加し、大きな喜びのうちに宴が閉じられた。



会場に広がる音頭の輪

HO日誌

◆10月1日 門推幹事会が別院で ◆2日 姫路ブロックご消息披露が姫路文化センターにて、姫路ブロック6組（神崎組・神姫組・姫路東組・姫路南組・姫路中組・姫路西組）より45人が参集しご消息を拝受、協議会ではトルコ・台湾の大地震に対する支援活動や教義の社会的実践についての活発な議論が展開された。第一土曜仏教講座を別院で、講師は神谷慧師「佛教讃歌を歌おう」。寺婦委員総会が別院で。門推の日。和歌山教区加茂組浄満寺が別院に団参 ◆3日 六粟組ご消息披露が西光寺にて、150人が参集 ◆4日 阪神西組仏婦15周年記念大会が西福寺にて ◆5日 門徒総代会西播ブロック研修会が姫路西組本徳寺にて、講師は久堀弘義師。和歌山教区寺族婦人会連盟が別院に団参 ◆6日 御巡教組々長協議会・少年役員会が別院で。佐用組常徳寺が別院に団参 ◆7日 基推定期研修会が別院で、講師は池田行信師。別院仏婦永代経法要、講師は高崎長英師。滋賀教区野洲組寺族婦人会が別院に団参

ご消息披露あいつぐ



姫路ブロックご消息披露

◆8日 基推常任委員会・第2回点検学習会が別院で（詳細4面） ◆9日 近畿ブロック仏教連絡協議会が奈良教区にて ◆11日 仏婦福井教区福井組長慶寺一如会が別院に団参 ◆20日 揖龍東組ご消息披露が清光寺にて、75人が参集 ◆21日 阪神東組ご消息披露が西福寺にて、250人が参集。ピハール編集委員会・門推打合会が別院で ◆23日 近畿ブロック門推研修会が別院で、講師は生駒孝彰師・三浦性暁師。一三九人参加（24日まで） ◆24日 近畿教区・深川利恵さんの結婚式が別院で（新婦は城崎組明元寺寺族） ◆26日 門徒総代会姫路ブロック研修会が姫路中組光源寺にて、講師は久堀弘義師。本願寺奈良教堂参与会が別院に団参 ◆27日

が本山にて（18日まで） ◆19日 寺婦研修会が別院で、講師は足利孝之師・西脇修師。青僧会布教研修会が出石組西方寺にて（20日まで）。福井教区福井組長慶寺一如会が別院に団参 ◆20日 揖龍東組ご消息披露が清光寺にて、75人が参集 ◆21日 阪神東組ご消息披露が西福寺にて、250人が参集。ピハール編集委員会・門推打合会が別院で ◆23日 近畿ブロック門推研修会が別院で、講師は生駒孝彰師・三浦性暁師。一三九人参加（24日まで） ◆24日 近畿教区・深川利恵さんの結婚式が別院で（新婦は城崎組明元寺寺族） ◆26日 門徒総代会姫路ブロック研修会が姫路中組光源寺にて、講師は久堀弘義師。本願寺奈良教堂参与会が別院に団参 ◆27日

◆29日 青僧会役員会が別院で ◆30日 保育第七回園長主任研修会が別院で、講師は大橋功師「時分の花を咲かせる保育」 ◆31日 六粟組願寿寺連師遠忌法要並びに住職継職奉告法要に高橋所長が伝達。神戸東組誠照寺前坊守葬儀に北村賛事が伝達。第一仏光保育園50周年記念大会（揖龍西組明正寺）。大阪教区東住吉組長光寺仏教社年会が別院に団参 ◆11月1日 仏婦常任委員会が別院で。山口教区都築西組・揖龍東組正徳寺が別院に団参 ◆2日 近畿篤志面接研修大会が大阪で ◆3日 淡路組宣勝寺阪神

◆29日 西池哲俊師。和歌山教区御坊組浄國寺・奈良教区添下組浄福寺仏教婦人会・京都教区城南組仏教婦人会・京都府仏具組合が別院に団参 ◆7日 別院仏婦定例法座、講師は松田義孝師。揖龍東組西法寺連師遠忌法要並びに住職継職奉告法要並びに住職継職奉告法要に高橋所長が伝達。出石組長専寺仏教社年会が別院に団参 ◆9日 近畿ブロック仏婦大会が奈良県立橿原体育館にて、教区より614人が参加。福岡教区東筑組顕照寺が別院に団参 ◆10日 近畿教誨師研修大会が和歌山で。青僧会が別院で。大阪教区石川南組真教寺仏教婦人会が別院に団参 ◆11日 スカウト役員会が別院で。和歌山教区和歌山西組正圓寺仏教婦人会が別院に団参 ◆12日 赤穂南組・赤穂北

組ご消息披露が赤穂南組永應寺にて、26人が参集。備後教区御調組和順仏教婦人会・福岡教区粕屋組北部坊守会が別院に団参 ◆14日 仏婦岡山ブロック研修会が美作パティオ21で。姫路西

各教化団体で研修会

門徒総代会丹波ブロック研修会が多紀組尊宝寺にて、講師は應供乗生師。岐阜教区中川南組尊照寺仏教婦人会が別院に団参 ◆28日 門徒総代会但馬ブロック研修会が豊岡教室にて、講師は

淡路大震災復興並びに住職継職奉告法要に高橋所長が伝達 ◆4日 第3ブロック青年布教使研修会が別院で、講師は石田慶和師・小笠原正仁師・米田睦雄師。四六人参加（5日まで） ◆6日

組ご消息披露が赤穂南組永應寺にて、26人が参集。備後教区御調組和順仏教婦人会・福岡教区粕屋組北部坊守会が別院に団参 ◆14日 仏婦岡山ブロック研修会が美作パティオ21で。姫路西

～兵庫教区仏教婦人会40年の歩みから～

1959(昭和34)年	69単位	稲村幸子委員長	兵庫教区仏婦連盟結成
1961(昭和36)年		岩井加叡委員長	近畿地区仏婦幹部研修会開催(赤穂・潮光園)
1964(昭和39)年	126単位	松田静恵委員長	孜教組・多可組仏婦大会開催
1966(昭和41)年	175単位		総連盟、長島愛生園恵鐘・呂久光明園西本願寺会館内陣を整備
1968(昭和43)年	200単位達成	脇 花子委員長	200単位達成記念仏婦大会、総裁様ご臨席にて開催 (姫路西組本徳寺)
1971(昭和46)年	227単位		第1回近畿地区仏教婦人会大会、総裁様ご臨席にて開催 (神戸国際会館)
1977(昭和52)年	328単位	中村二三子委員長	第7回近畿地区仏教婦人会大会、総裁様ご臨席にて開催 (神戸国際会館)
1979(昭和54)年	350単位達成		結成20周年並びに350単位登録記念大会、総裁様ご臨席にて開催
1980(昭和55)年		肥塚君子委員長	長島愛生園・呂久光明園の慶讃法要厳修(総裁様ご臨席)
1981(昭和56)年			長島愛生園同朋会創立50周年記念式典に総裁様
1983(昭和58)年			長島愛生園恵鐘再鑄記念法要、総裁様ご臨席にて厳修 (引き続き呂久光明園へ)
1984(昭和59)年		大野泰子委員長	仏婦創立150周年兵庫教区記念式典並びに名誉総裁様感謝の集い開催(ポートピアホテル)
1985(昭和60)年			兵庫教区組画変更 第13回近畿地区仏教婦人会大会、総裁様ご臨席にて開催 (ポートアイランドホール)
1988(昭和63)年	483単位	加藤道子委員長	結成30周年記念大会を神戸県立文化体育館で開催 (総裁様ご臨席)
1990(平成2)年			「ダーナ手帳」の発行開始
1991(平成3)年		松井芳子委員長	第19回近畿地区仏教婦人会大会、総裁様ご臨席にて開催 (ポートアイランドホール)
1994(平成6)年		木村久子委員長	第10回世界仏婦大会に101人が参加 (カリフォルニア・アナハイム)
1995(平成7)年			1月17日 阪神・淡路大震災発生、3月より明石市を拠点にダーナ活動として震災支援活動開始 阪神・淡路大震災物故者総追悼法要が、総裁様ご臨席のもと成徳学園にて厳修 教化センター研修(神戸別院・教化センター)に6日間4,000人が参加、椅子・机を寄贈
1996(平成8)年	532単位		本願寺神戸別院・兵庫教区教化センター完成記念慶讃御親修法要 第1回仏婦単位会長研修会が教化センターにて実施、400人以上の単位会長が参加
1997(平成9)年			総連盟と共催にて第1回震災復興支援法話会実施 (淡路組萬行寺) 第25回近畿地区仏教婦人会大会、総裁様ご臨席にて開催 (ポートアイランドホール)
1998(平成10)年			第11回世界仏教婦人会大会(大阪城ホール)に852人が参加
1999(平成11)年	534単位		結成40周年記念大会、総裁様ご臨席のもと開催(神戸国際会館)

基幹運動を見直す

第2回点検学習会で活発な討議

平成十一年十月八日(金)、神戸別院研修ホールにて「第二回兵庫教区点検学習会」が開かれた。この点検学習会は八月二十六日にも第一回が開催されており、今回は前回協議できなかった「差別法名・過去帳調査」報告に基づく協議を中心に、部落解放同盟兵庫県連合会、同岡山県連合会と共に協議を重ねた。

協議に先立ち高橋教務所長は「前回の学習会で『差別事件を個人間の問題と受け取り、宗門全体の問題と捉えていないのではないか』という大変重大で基本に関わる点を指摘いただいた。今日までの活動が、大きな期待をいただいていることに答えられるものであったらどうかと真摯に受け止めていただきたが、この学習した内容が具体的な宗門全体の歩みとなっていくように、運動を推進させていたいただきたい。」とあいさつした。

兵庫県連・橋本委員長は「人権問題に対する意識は各界層に広がっている。そ

れに対する基本認識はいかなる立場においても一つであり、そこを理解して初めて実りが生まれる。平和と人権の問題は解放同盟と同じく宗教教団にとっても柱となる。前回や今回のような研修の内容や教団の取り組みの具体的な方針や行動などについて、全ての住職が理解と認識を持ってもらいたい。宗教活動の日常が今後どのように広がりや深まりをもつのかということ

を期待します。」とあいさつした。

続いて岡山県連・宮本委員長は「様々な差別事件の現場で阿弥陀如来の光と向き合ったとき、僧侶としての自分に自分自身が変わられていったのか、それを伝えていただきたい。そこで初めて門信徒に基幹運動の本質が理解されていくのではない。矛盾や課題を教義に照らして考えていただき、運動を宗門全体に広げていっていただきたい。」とあいさつした。

協議会ではまず、「差別法名・過去帳調査」報告、

調査表未提出寺院への働きかけ、今後の課題、の三議事に対する協議が行われた。「差別法名・過去帳調査」報告については四つの点について指摘があった。一つは規定外法名への対応につ



いて、一般の門徒が長い法名を頼む気持ちは解るが、なぜ僧侶が諸々とそれに従い教義に基づいた対応ができないのか。差別法名に対しても、教義を大事にして

のか、といった点。これについて、宗派の定めている教義が僧侶によってないがしろにされるようでは、基幹運動自体が信頼できるものになっていくはずがない。この問題を教義に沿って生きていく者全体の課題として具体的な対応を議論していくべきとの意見が出た。

二つめは壬申戸籍の問題について、過去帳がその基になったということについて知らない住職・門徒が多いのではないかと。戦後になるまで壬申戸籍が過去帳を基にしていたという点に気付きながらも問題としてこなかったという反省があり、原点に戻り差別に対する認識を深め、これに対する認識を宗門全体が基本から学びなおす必要があるといった意見があった。

三つめは過去帳調査するにあたり、字・添え書き・記載方法などについて質問があった場合の差別法名認定委員会での判断基準について、「差別法名・過去帳調査」自体についての認識の違いがあるのではないか

といった点で、部落差別に對する過去帳調査に留まっているのではないかと指摘があった。過去帳調査の意義は法名をつける時点で非人間的な扱いがされてきたのかどうかということ

を調査することであり、部落差別の証拠を調べて訂正するという面に留まっていた。差別問題に対する追求と差別追放に向けての運動を深めることはできないという内容。

差別法名・過去帳調査関連三議事にわたり指摘を受けたのは「基幹運動の意義を認識することは、宗派にとって重要なものであるはずの教義・儀式が習慣や習俗に流されている現状を打開していくことにもつながる。僧侶の教義の重要性への認識不足や、差別過去帳・差別事件に対する反省の欠落は、基幹運動そのものの意義を問う結果となるであろう。まず僧侶一人ひとりの本分を尽くそうとする努力が運動の原点であろう。」といった厳しいものであった。

続いて前回(八月二十六日)提起された件について、教団が過去に差別をしたという歴史を踏まえ、現在の教学・機構の問題点を本山

へ建議し、基幹運動をさらに広がり深みを持たせる取り組みを行うことが再確認された。

最後に兵庫県連橋本委員長は「なぜ今、差別法名の問題や壬申戸籍と法名・過去帳の関係などを考えているのか基本から見直していただきたい。過去帳を書き換えても墓石まで建てかえるわけにはいかない。それよりも教団自体が間違っていた行ないをしてきたという認識や、差別に対して過去に寺院が果たした役割に対する自覚を徹底すれば問題はこれから改まっていくであろう。差別法名というものは、法名をつける僧侶がしっかりとした認識を持っておればでてるわけがないのだ、ということをしかりとおさえていただき、今後の取り組みを見出したい。」とあいさつした。

これに承えて高橋教務所長より「今回の学習会は本山からの指導により開催されたものだが、今後も教区の自主的な活動として定期的に解放同盟との学習会を開催したい。」と述べ学習会を閉じた。

当日資料請求は、教務所教区相談員近藤まで。